

## 化学専攻（博士前期課程）

### 1. 教育研究上の目的

化学専攻は、学部教育で修得した科学的思考力・実験技術の基礎の上に、化学分野の専門的知識を幅広く身につけ、広い視野から化学分野の諸問題に対し主体的に研究に取り組むことができる人材を養成する。

### 2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

化学専攻（博士前期課程）では、履修規定に即して必要単位を修得し、必要な修業年限を満たした上で、下記の能力を備えていると判断した場合に、「修士（理学）」の学位を授与します。

（知識・技能）

1. 化学分野の基礎的な知識と研究手法を身につけ、研究を遂行することができる。
2. 幅広い課題に対して化学分野の専門家として立ち向かう知識と能力を有している。

（思考・判断・表現）

3. 国際的な視野に立って自ら考え、その考えを表現することができる。
4. 周囲の人と円滑なコミュニケーションをとりながら問題解決のために行動することができる。

（関心・意欲・態度）

5. 化学分野における諸問題に関心を持ち、未解決の課題に主体的に取り組むことができる。

### 3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

化学専攻（博士前期課程）では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を修得させるために、以下のような内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成します。

（教育内容）

1. 化学分野の基礎的・発展的知識を修得するため、「無機化学特論」「分析化学特論」「有機化学特論」「物理化学特論」「化学物理学」「実践化学英語」を配置する。（知識・技能）
2. 化学研究に必要な専門知識を身に付け、また的確に伝える能力を修得するため、「化学特別演習」を必修科目として配置する。（知識・技能／思考・判断・表現）
3. 化学研究における技能を身に付け、また新たな化学的知見の創出を目指して自主的に

研究を進める能力を修得するため、「化学特別研究」を必修科目として配置する。(知識・技能／思考・判断・表現／関心・意欲・態度)

4. 高度な研究能力を修得するために、各研究室での個別的な研究指導やセミナーを行う。  
(知識・技能／思考・判断・表現／関心・意欲・態度)

(教育方法)

1. 講義・演習・実験科目では、化学分野に関する高度な知識・技能を効率的に修得させることを目指す。
2. 演習・実験科目では、指導教員の下でセミナーを開講すると共に、個別研究指導を丁寧に行い、学生一人ひとりが高度な研究能力を獲得できるよう、体制を整える。
3. 研究遂行に求められる倫理観、並びに安全重視の思想を育む機会を提供する。

(教育評価)

1. 知識・技能の修得に関しては、学期末や平常時に行われる試験・レポートに加えて、学位論文についての研究成果・理解度の審査を通じて把握する。なお、論文審査にあたっては、別に定める審査基準に基づいて、総合的に判断する。
2. 考察力・論理性、研究への取り組みにおける態度やプレゼンテーション能力は、セミナーでの発表・ディスカッションや、学位論文審査を通じて把握する。
3. 関心・意欲・態度の修得に関しては、セミナー並びに研究発表会における口頭試問により把握する。

#### 4. 入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

化学専攻 (博士前期課程) では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

(知識・技能)

1. 化学分野において学部で習得すべき基礎的知識を身につけている。
2. 学術情報の修得に必要な英語力を身につけている。

(思考・判断・表現)

3. 物事の根本を論理的・実証的に分析・考察する能力を身につけている。
4. 自らの考えや知識を他人に的確に伝える技術を備えている。

(関心・意欲・態度)

5. 専門分野に関する知識の習得のみならず、研究を主体的に行う熱意を持っている。

以 上